

## 「今、私たちになにができるか

# KANBO 通信

### ～環境防災科生徒が考えたこと～

## # 2

みなさんに提出してもらった課題を別紙にまとめていますが、1枚ではまとめられないほど様々な意見ができました。みなさんからのたくさんの考え・想いの一部ですが紹介します。



### 🏠 2年生の上谷さんが、自宅で手作りマスクを作成してくれたときのことを報告してくれました 🏠

少し作業が多くて難しい感じもりましたが、折り紙みたいで楽しく作ることが出来ました。材料はキッチンペーパー(2枚)と輪ゴムとホッチキス(テープでも代用可)なので家にあるもので作ることが出来ます。

手順が多くて少し難しい点もありますが、覚えていて損は無かったです。布マスクも母と作ったんですが、どうしても道具や技術が必要になってまともなものが全然作れませんでした....

「誰でもどこでも作れる」というのが大切なので今後の活動で広めていけたらと思っています。キッチンペーパーは1枚20cm×20cmのものを使いました。輪ゴムよりも髪ゴムや手芸用の平ゴムの方が耳にかけた時に負担が楽です。(少しコストがかかるのが問題点ですが...)どうしても長時間付けるとなると手作りはもちろん市販のものでも耳が痛くなってしまいますので、頭掛けマスクにすればマシになるのではと思っています。

キッチンペーパーマスクは新聞スリッパやビニール雨カッパと同じように“日常で使う物”ではなく“緊急時に役立つ物”だと私は考えてます。

([https://m.facebook.com/wfprakow/videos/2727955233982406/?refsrc=http%3A%2F%2Ft.co%2FUiAwyF9xn5&\\_rdr](https://m.facebook.com/wfprakow/videos/2727955233982406/?refsrc=http%3A%2F%2Ft.co%2FUiAwyF9xn5&_rdr)) より



### 🏠 2年生の梶本くん、香川くんは具体的に考えを述べてくれました 🏠

(梶本くん) 現在、コロナウイルスによる感染症により、外出自粛を求められている中で、私たちに出来ることは情報発信だと考えています。

1つ目は、SNS場(Twitter等)で、被災地の方々とコミュニケーションが取れる場を作ることです。「今、支援が必要な物、困っていること」の情報を得て、解決方法を僕達で考え、発信します。そうすることで、支援者側に情報を渡す事だけでなく、SNSを利用している多くの方々にそれぞれの被災地の現状を知ってもらう機会になると思います。

2つ目は、もしこの現状で、大災害(地震、豪雨など)が起きた場合に、どのような危険性があるか、混乱が起こるのかを自分達で調べたり、そうならないためにはどうすれば良いのかを考えたりして、その情報を分かりやすくインターネット上で発信する。

3つ目は、SNS場で、幅広い世代に災害に対する関心を深めてもらうため、意識調査や、災害時の適切な行動、防災知識をクイズ方式(アンケートを含む)で発信する。

(香川くん) 新型コロナウイルスが蔓延している今、僕達に出来る事。

まず第一に、僕自身が新型コロナウイルスにかからない事。それが1番大切だと思う。僕自身がかかると、元も子もない。かからないためにも、不要不急の外出を控え、トレーニングのために外に出た時には、手洗いうがいを徹底していきたい。僕は環境防災科の一員として、周りの人にも外出を控えようという声かけられるようにしたいと思う。

そして、今起こっていることについて知ること大切だと思う。対岸の火事と思わずにテレビ、ニュースの情報に耳を傾けたい。物による支援、訪問などは出来ない。そんな僕に何が出来るかと考えると、正直、とても苦しい気持ちになる。

そんな僕が1つ思ったのは、誰かに元気を与えたい。どうすれば良いかと考えた時に、1番最初に思い浮かんだのは、ビデオレターだ。手紙、電話などもあるが、僕達の映っている動画を見ることで少しでも元気を取り戻す人がいると思う。具体的に言うと、皆がメールを送るために使っているこのスマートフォンで、自分1人で動画を撮影する。その動画内では、一緒に乗り越えよう。といったような、見ている人を勇気づけられるようなもので、それを組み合わせ、SNS等に発信する。高校生である僕達の元気な姿を発信することによって、見ている人にテレビ等では感じない、ポジティブな感情を芽生えさせることが出来るのではないかなと思う。

実現することは、難しいと思うが、心のケアという点では、僕達も活躍ができるのではないかなと思う。

またもう一度、学校に行き、ボランティアに行き、みんなの笑顔を見れる日を楽しみに毎日過ごしていきたい。

ビニールカップや新聞スリッパと同じようにマスクも「災害時・緊急時に選択肢を広げる」ものとして、知っている役立つね。最近「もし災害が起こった時に避難所は安全なのか」という心配がされています。マスクがなければせめてハンカチやタオルで口を覆いなさい、という指摘もされていますが、両手が自由になる分、簡易マスクは助かりますね。このように、自分が気になったことについて、実際に自宅で取り組んでみるといいですね。また、インターネットを活用した情報発信など、私たちにできることなどきつとその他にもたくさんあります。みなさんが考えてくれたことを、少しずつ、できる範囲で実践していけるといいですね。

## 「チームうちわ」プロジェクト発足!!

オープンハイスクールや地域の夏まつりなどで配布する「紙うちわ」を作成するプロジェクトを立ち上げました！このうちわを通じて防災意識の啓発活動や、地域の方々とのつながりをさらに深くし、うちわをもらった人が安心できる・役に立つようなうちわのデザインを募集します！デザイン用紙にうちわのデザインを描いたものを、写真に撮り、環境防災科メールに添付して送ってください！



- ① 1, 2年生は必ず送ってください。(3年生は自由です)
- ② 締め切りは5月 25 日(月)17:00 です。

みなさんが送ってくれたデザインから、先生たちでベストデザイン賞を決定します！少し内容を編集させてもらうかと思いますが、ベストデザイン賞のデザインをもとにうちわを 5000 枚ほど制作し、様々なところに配布される予定です！みなさんのアイデアを楽しみに待っています♪♪

## 🌻ひまわり、植えました🌻



4月半ば、榊田先生と小寺先生が昇降口横にひまわりの種を植えました。このひまわりの種は、高知県わらびがおか四万十市 蕨岡 中学校から譲っていただきました。2、3年生の中には、昨年度修学旅行で来てくれた蕨岡中学校の生徒の方々と交流したことのある人もいますね。このひまわりは「はるかのひまわり」とよばれています。

1995（平成7）年1月17日の兵庫県南部地震により自宅が崩れ、神戸市の小学校6年生、加藤はるかさんが亡くなりました。その半年後の夏、はるかさんの家があった空き地に無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向かって咲いていました。そのひまわりは、近所の人たちから、「はるかのひまわり」とよばれるようになり、これまで様々な災害の被災地に種が送られ、花を咲かせてきました。（防災教育副読本「明日に生きる」より引用）

右の写真が4月28日の「はるかのひまわり」の様子です。元気よく、かわいらしい芽を出してくれました。これからの成長が楽しみです！



休校期間が長引く中、様々な思いを抱えて過ごしていることと思います。私は大学の頃に登山をしていましたが、厳しい天候の際はテントの中で1日待機することがありました。早く次に進みたいけれども、進めない。下手に進めば、遭難してしまう。あの苦々しい気持ちは、今の状況に似ていると感じます。

では、次に進めない状態で何ができるか。私は「健康の維持」と「次への準備」が大切だと思っています。食事・運動・睡眠の3セットを通して、メンタルを維持する。イライラしない。そして、スッキリした頭で次への対策を考える。休校明けの授業に向けて勉強をしたり、ニュースで必要な情報を収集することが当てはまるのではないのでしょうか。「止まない雨は無い」と言いますが、どこかのタイミングで登校できる日が来るはず。休校明けに元気に会えることを楽しみにしています。

3年環境防災科担任

力丸栄作先生より

